

午後 1時51分 再開

○議長（門脇直樹君） 会議を再開いたします。

4番議員の質問を許します。4番腰山良悦君。

○4番（腰山良悦君） ただいまの同僚議員と重複しますが、通告によりまして2点質問させていただきます。

1点目ですが、巡回バスの試行運行について伺います。

昨年10月から路線バスが運休となり、新たな運行を始めて間もなく半年になるが、これまで利用者からどのような意見や要望が寄せられているか。また、それらを踏まえて、今後、本格運行前にルート・時間など見直す考えをお持ちか伺います。

2点目であります。高校生の通学費助成について伺います。

以前に自動車通学の助成を一般質問で取り上げたところ、公平でないとの答弁でした。今日は補足して再度質問します。

前にも述べたように、中学生まではかからなかった学費も、高校生になり、通学費や授業料、教材費等で保護者の負担が多くなっています。クラブ活動等、事情により最寄り駅や学校へ車でわざわざ送迎している家庭もあり、労力や経済的にも大きな負担になっております。通学費軽減のため、通学手段にかかわらず費用の一部を助成する考えはないか伺います。

以上、お願いいたします。

○議長（門脇直樹君） ただいまの4番議員の質問に対し、答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 腰山議員のご質問にお答えいたします。

1問目は私が答弁いたしますけれども、2問目は教育長が答弁しますので、よろしくお願いたします。

はじめに、巡回バスの試行運行についてお答えします。

「これまで利用者からどのような意見や要望が寄せられているか」につきましては、「一部ルートを変更してほしい」、「車内ベルを付けてほしい」、「車両の乗り降りの際にステップを付けてほしい」、「待合室を作ってほしい」、「金曜日の午後6時頃に能代方面へのバスを運行してほしい」、「土曜日の6時頃に能代方面からのバスを運行してほしい」などといった内容の意見や要望が寄せられています。

「一部ルートを変更してほしい」については、当該地区の利用状況等を精査したところ、変更した方が利便性が高まることが確認できたところについては、11月の運行から

変更しています。

「車内ベルを付けてほしい」については、バスの後方座席から運転手に途中下車の声をかけても気づかないケースがあったため、取り付けています。

「車両の乗り降りの際にステップを付けてほしい」については、乗り降りの際のステップとハンドレール付きの車両を現在手配しており、年度末には納車される見込みです。

「待合室を作ってほしい」については、引き続きバス停ごとの利用者数等を調査し、設置場所等を含め優先順位を付けて設置の検討を行ってまいります。

「金曜日の午後6時頃に能代方面へのバスを運行してほしい」、「土曜日の6時頃に能代方面からのバスを運行してほしい」については、「道の駅みねはま」で接続する秋北バスの能代・峰浜線にその時間帯の運行便が現在ありませんので、秋北バスと協議してまいります。

なお、10月以前にも「乗り降りフリー区間を設定してほしい」、「バス停を追加してほしい」といった要望があり、それぞれ改善しています。

「今後、期間中にルート・時間など見直す考え」については、10月からの巡回バス利用者数は順調に推移しており、利用者も今の運行体制に慣れ始めてきているものと思われる。

また、運行時間については、「バス乗車券類購入支援事業補助金」を活用されている方を対象に行ったアンケート調査結果を基に、目的地と到着時刻を「厚生医療センターに8時半前に到着する」ことを基本骨格とした経緯があることや、接続する秋北バスの能代・峰浜線も運行時刻の変更が予定されていないことから、現時点ではこのまま運行を続けてまいりたいと考えています。

私からは以上です。

○議長（門脇直樹君） 川尻教育長。

○教育長（川尻茂樹君） 次に、2問目につきまして私の方から説明させていただきます。

「高校生の通学費助成について」のご質問にお答えします。

現在、八峰町から、130名ほどの高校生が能代市内の高校に通学しています。

その通学状況を見ますと、高校によって多少の違いはありますが、例えば、朝は学習強化として通常より早い特別授業、部活動に入っている生徒の早朝練習などがあり、また、授業終了後においても追加補習授業や部活動、さらに個人によっては塾や習い事に通うなど、多種多様な生活状況であり、通学の方法もその状態に合わせて、自家用車で

保護者の通勤の途中や、家業などの仕事前に、さらに祖父母から送り迎えをしてもらっている生徒など、多種多様であります。

ご質問の通学費の助成につきましては、列車通学のほか、自家用車通学や自転車通学の生徒もいるなど、多様な通学形態となっておりますので、一律に支援することについては、公平性の面から問題があり、高校生への通学助成については難しいものと考えております。

以上です。

- 議長（門脇直樹君） 4番議員、再質問はありますか。4番腰山良悦君。
- 4番（腰山良悦君） ただいま町長より、巡回バスについていろいろと意見や要望等伺いました。そしてそれによって改善してきたということなのですが、今現在ですね路線バスの運休によって、これまで利用してきた高齢者や足の不自由な人、そういう人方が利用したい時に利用できない。また、停留所が遠くなり不便になったなどの声があります。やるからには地域の利用者が依然より便利になってよかったなと思えるようにならなければ意味がないと思いますが、どう考えますか。
- 議長（門脇直樹君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。
- 町長（森田新一郎君） 基本的に今よりも不便になったら、これ何のためのシステムかって話になりますから、そういうことがないように、いろんな方々へのアンケート調査をしたり、そして先ほども答弁いたしましたように、運行中にも利用された方々が不便だと、いわゆる降ろしてくれって、その前にいわゆるフリー区画で、バス停だけでなく帰りは自分のうちの前さ降ろしてくれっていうふうな話があれば、そういうふうな形でも改善したし、だからそのために、いや、ここ降ろしてくれって言ってバスの運転手が気づかないでいたケースもあったので、ベルを付けたりとか、まあそういう不便にならないようなそういう形で、いろんな人の声を吸い上げながらこのシステムを改善してきますので、確かにその方おっしゃるのは、自分の目の前にあったバス停がちょっと動いたから遠くなったとかって話なんだかもしれませんが、そこのバス停部分についても各自治会長さんと相談して、どこに置けばいいかという部分を相談しながらやってきますので、そういう方々がたくさん出てくれば、じゃあそこのバス停の位置が悪い話になってしまうから、そういう形の声があがってくれば、また改善をしていかなければいけないというふうな形で思います。

基本は、腰山議員おっしゃったように今よりも不便になっちゃ困るんです。今よりも

不便にならないような形でシステムを作り上げていく必要があると思います。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。4番腰山良悦君。

○4番（腰山良悦君） 今、私のうちの前が停留所になっております。やはりそこから乗る人たちもですね、何ていうんですか、例えば岩館の場合、段差があります。国道と、それから町道、それから海岸と。そうすればですね、例えば上の団地からバスに乗りたいたと思えば、町道走らなければ海岸まで来なければいけません。そうすればかなりの負担になると思いますよ。それを私どもに来て、こぼしておるんですよ。そういう人が1人や2人じゃないですよ。結構おるんですよ。

それでですね、いや、こういうこと言えばあれですけども、岩館の場合ですね、岩館の場合、言うのもなんですが、例えば同じ時間にしても月水金が町道、それから火木土が海岸ですか。それで時間がまちまちなんです。それでそれを覚えるのがまた大変だというような意見もあります。それでですね、何ていうんですか、岩館の場合は運行するコースを変えればそれは解消できるんですよ。別に難しいことじゃないんですよ。いいですか。例えばね、小入川から入ってきて町道走って、路線バスのコースを走って行って、それからかもめ団地へ上って、そして海岸通りを帰れば説明のつくことなんです。そして毎日運行できるんですよ。そして乗りたい時に、今まで利用してあった路線バスの人も、何ていうんですか、下の方まで歩かなくても済む負担が増えないと、そういうことになるんですけども、もう一度検討してみたらどうかと思いますが、どうでしょうか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） いや、議員の方からのご要望がありまして、最初はかもめ団地からスタートでなくて、もっと手前からスタートしてあったのを、かもめ団地にスタート地点をそこまで行ったので、かもめ団地の人はそこから乗れるはずですよ。だから不便にはなってないです。

それと、基本的に岩館線が1本だったっていう部分を、それを海岸沿いに住んでる人方が非常に不便だと、坂が多くて登りきれないから。だからその部分を踏まえて、海岸線のルートも作ったんです。だから2本走らせてますので、その部分では、確かに自分が行きたい曜日に海岸線の方が上の方さ行かなきゃいけないという部分は確かにあるかもしれないけど、もともとなかった部分を、ルートをこうやって作らせたので、その部分をルートを変更して複雑にすれば、また先ほどの議論のように時間がかかるっ

という話になってくるので、非常に難しい話になります。

基本的に今の腰山議員が提案した部分の意味がちょっと分からないんですけど、どういうルートを変更すればどうなるかっていう部分の意味分からないんですけど、基本的には1本の路線だったところに2本を通してますから、それぞれの方々は便利になると思います。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。4番腰山良悦君。

○4番（腰山良悦君） 路線バスを利用する人が不便になったんですよ。分かりますか。

○町長（森田新一郎君） 路線バス。

○4番（腰山良悦君） 要するに、上に住んでる、団地に住んでる人がね、まず毎日利用ができない、毎日っていうか利用したい時に利用できないわけですね。路線バスは毎日走ってあったわけだね。それがまずひとつ不便になったわけだ。それから、どうしてもその曜日に行きたいとなれば、下行かなければならないでしょう。その距離というものは段差がある。あって、なかなか足の悪い人、高齢者にはかなりのやっぱり負担になってるんですよ。そこら辺、町長やっぱり理解してないと思いますよ。ちょっと考えてみてください。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。高杉企画財政課長。

○企画財政課長（高杉泰治君） ただいまの腰山議員のご質問にお答えしたいと思います。

それこそ、今、団地団地というような形の言葉が先にあるので、おそらく町長の方もちょっとこうピンと来てないところがあるかと思うんですが、今現在のかもめ団地につきましては、岩館方面からの出発点がそこになっていますので、かもめ団地のところにつきましては、まず乗れることになっております。

ただ、腰山議員が今おっしゃっているというのは、おそらく曜日によって、普通の今までの路線バスのルートと海岸沿いのルート、それぞれになるので、今まで路線バスはいつも定期的に、何といいますか、町道の上の方の道路をこう走っていたので、そこを毎日通らなくなったのが不便なので、例えば小入川だとか岩館の漁港のあたりから、例えば岩館漁協を出発だとすれば、それから一度海岸線をずっと走って行って、かもめ団地まで行って、で、戻ってきて、今度、中の通常の今までの路線バス通っていたルートを通れば、毎日まずロスなく全ての岩館の地区を拾えるのではないかというご質問かと思えます。

そのことに関しては、始発の時間、これ今ちょっと私、岩館のかもめ団地前から小入

川の所要時間、大体どれくらいかかるのかというのをちょっと見てるんですけども、10分程度あればそれは可能になるのかなというような気もしてございます。そこら辺については、今後、バス事業者さんの方と検討しながら、また、必要以上に調査時間が長くないかということも併せて検討してまいりたいというふうに思っています。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。4番 腰山良悦君。

○4番（腰山良悦君） 一言ですけども、私が言ってることは、かもめ団地のことじゃないんですよ。向台の上の団地のこと言ってるんですよ。そこからバスに乗る人がそういう不便になったということ、そこを当局は理解しているのかなというように思ってるんですけどもね。まず後であれです、直接、課の方へ行って話しますので、これはこれで終わります。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。

○4番（腰山良悦君） 1問目については終わります。

○議長（門脇直樹君） うん。

○4番（腰山良悦君） 1問目についてはこれで終わります。

○議長（門脇直樹君） 続けてどうぞ。

○4番（腰山良悦君） はい。2問目についてですけども、通学が大変で市内への転居を考えている保護者もいると聞いております。高齢者は取り残されることを心配されています。それでですね、多少なりとも助成することが1人でも定住に繋がり、高齢者の不安を払拭できると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。どっち。川尻教育長。

○教育長（川尻茂樹君） ちょっと聞き取れなかったところなんですけども、いずれ高校生の場合、確かに負担が増えるなというふうなことは、小中学生に比べてあるなというふうなことを感じてます。

ただ、その通学費っていうふうに限定しますと、例えば能代市内の高校にまず通ってるわけですが、電車使っているのは、私、以前に沢目駅行って数えましたけども、やっぱり20人くらい。そのほかは、まず車とかで行ってると思います。で、親が能代市内に勤めて出勤のついでに送り迎えするケース、あとは、そういうことができなくて、保護者、祖父母がこうやるケース。あと、中には、近いのところでは自転車のケースもあるんですね。そうすると、どう考えても、どういうふうに支援するにしても不公平感が出てくると思いますので、ちょっとこの通学費に関しては、私は難しいんじゃないかな

というふうな回答です。

以上です。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。4番腰山良悦君。

○4番（腰山良悦君） 確かに細かく分離すればそういうことになると思います。しかしながらですね、やはり車で通うにしてもですね、わざわざ送っていったる保護者っていうんですか、あと、じいさんばあさんもおるわけなんですよ。それが非常に負担になってるという話しております。それはやはり個人、いろいろと個人差はあると思いますが、それによって、何ていうんですか、若い人方がね町から離れていくというようなことになればですね、やはり取り残されてる親ですか、保護者の親、親といますか、そういう人方はやはり不安にされると、そのように私は思います。

そういうことで、もしできることであればですね、あまり細く考えないで、細く考えないでですね、一律に、金額はあれしないで、5,000円とか3,000円とかそういう形で、列車通学も車であれする人方も一緒に一律に助成すればいいのではないかなと思うわけなんです、いや、ガソリンも今値上がりしていることですので、車で送る人方も結構やっぱりかかると思います。もう一度答弁をお願いします。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 今の腰山議員のお話っていうのは、高校生でなくて小中学生、高校生でなくて小中学生であれば、通学形態がほぼ一緒ですからいい話なんです、今みたいに多様な形の部分のやつで一律にそういう3,000円やるとか5,000円やるとかっていっても、実際かかっている経費は大変、定期の人は高いしとかいろんな問題あるので、非常に難しい話だと思います。今の腰山議員の部分については、この後の、来年度、小中学校のスクールバスの関係の部分の、私の頭の中にある一つはそういう考え方もあるので、いろんな選択肢の中でやりますけど、いずれ高校生の場合は、本当に通学形態があまりにも違い過ぎるので、一律って考え方は非常に難しいというふうな答弁です。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問ありませんか。4番腰山良悦君。

○4番（腰山良悦君） 実際、よその市町村で通学費として一律にやっているとこもあります。いずれ、今後検討していただければ幸いに思います。

これで質問を終わります。

○議長（門脇直樹君） よろしいですか。

○4番（腰山良悦君） いいです。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問がないようですので、これで4番議員の一般質問を終わります。